

『急がば回れ』をハイテクで指導

— 中部電力名古屋支店 —

電力業界初！ 自動車版フライトレコーダ導入

中部電力名古屋支店（木下昭一取締役・支店長）は、従業員が自動車で仕事先へ向かう際の安全運転意識を向上させるため、運転の癖などを把握できる「自動車版フライトレコーダ」を4月に導入した。危険な運転につながる「急ブレーキ」などを感知し、データとして記録、それをもとに本人に改善を指導する。自動車版フライトレコーダはセイフティレコーダとビデオカメラ、GPS（全地球測位システム）で構成。運転時の「急ハンドル」、「急発進」、「急ブレーキ」を感知し、データとして発生場所、時間、映像（音声含む）などを記録する。導入は電力業界で初めてという。同支店は1999年度から運転の事故につながる悪癖改善に向けた同乗指導を、安全運転主任トレーナー、運行管理者などが中心となり、安全強調期間をはじめ年3回実施している。しかし、交通災害・車両事故は増加傾向にあり、とくに単独運転時に多く発生していることから、今回このフライトレコーダを5台導入し、

事業場持ち回りで活用することとした。単独出向時の「急」な運転操作などが地図と走行軌跡および波形グラフ（数値）で詳細に表されるため、このデータを解析し、



車内に取付けたSR

安全確認が行われたか、危険な運転をしていないかなどを、運転者本人と管理者が点検する。こうした教育指導に活用することで全運転意識をさらに高め、事故の撲滅を図っていく。（2003年5月27日電気新聞より）



業界紙の紙面から

事故ゼロへの挑戦！

今年の冬場は事故ゼロを達成

- ・「イーエスピー商運（弘中英二社長、北海道恵庭市）は、SRを21基導入した。昨年から、今年1月までテスト装着していたが、「安全運行に効果を発揮した」ため、3月までに取付を完了、今月から本格稼働させている。導入前に、SRとデジタルタコグラフの費用対効果や機能性などを比較検討した。SRでは、重力測定により急ブレーキ、急ハンドル、急アクセル操作が明確にデータ化され、標準仕様の全地球測位システム（GPS）で発着地の時間や住所も記録。安全管理、燃費削減、日報の自動出力などでの活用を模索していたことから、「ニーズに偶然マッチした」。テスト装着の結果、冬季事故はゼロとなり、燃費も大型冷凍車の場合、1ℓ当りの走行が2.8[㌔]から3.3[㌔]に向上。「スピード超過に対するドライバーの意識の変化も大きい」という。同社では「データが細かく分析でき、ドライバーにも説明し易い。導入後は実際に事故がなくなったので、これを機に運行管理をシステム化し、業務を安全・確実にこなせる組織体を構築していきたい」としている。」

・（物流ニッポン4月10日の記事より転記）

ヒヤリハットを意識させさらに努力を

「当社が、SRに初めて出会ったのは、北海道交通共済様から試しに使ってみたらとのお薦めから、昨年秋に、借用・取り付けた時でした。おかげで、例年、冬場には事故が多く発生していたが、今年は全く事故に遭いませんでした。運輸事業に従事しているプロドライバーは事故を起こしたら辞めてもらうのがあたりまえだ！という意識で普段からドライバーに対し、運行安全の指導を徹底しております。これからは、いかにして事故に繋がる危険因子を排除していくかが鍵で、ヒヤリハットが多くて、日頃からしつこく指導しても一向に改善されないドライバーには辞めてもらうんだという意識で接してかなければならいところ掛けております。事故が起こってからの対処では遅すぎているからです。」

SRのような使い勝手のいい車載機器をもっと世の中に広める努力をお願いしたい。こうすることで、運輸業界全体の運行安全に対する取組みが向上し、輸送品質も上がっていくことになると思います。また、プロのドライバーとして、運行安全データを受け入れていけないようでは、他の運輸会社でも採用されないよ！と日頃から徹底した指導を続けております」

（イーエスピー商運（株） 大坂常務）

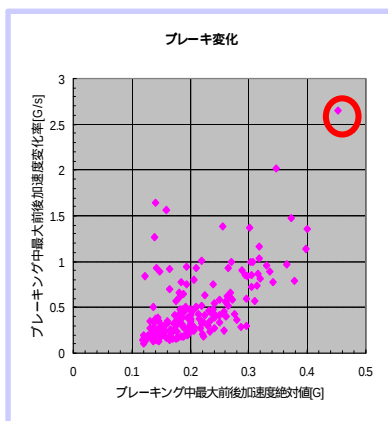


散布図から判る運転のヒヤリ・ハット

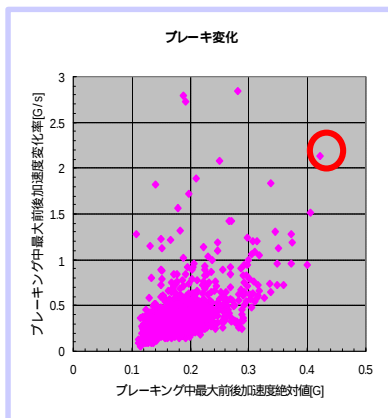
SR 解析ソフトをお使いの方は、運転診断結果がレーダチャートと散布図で表示、印刷できることをご存知のことと思います。第2号では、散布図のパターンから運転をする人のクセが見えることを紹介させていただきました。今回は散布図上にプロットされているポイントから、どのような運転状況であったかを読み取る方法をこのコーナーでシリーズとしてご紹介致します。

第1回目は、ブレーキ診断のブレーキ操作の急激さ（咄嗟のブレーキ）についてです。

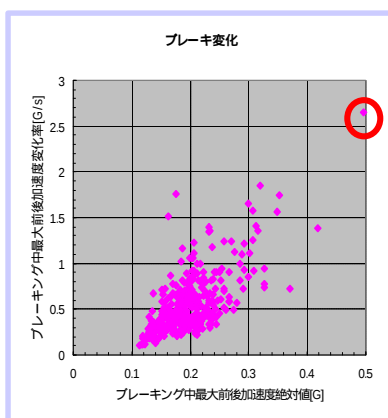
下に示しました三つの「咄嗟のブレーキ操作」のケースは、夫々が違った回りの状況のもとで起こっていることが画像と照らしてご覧になると判ります。咄嗟のブレーキ操作が、一歩誤れば事故につながることを画像は示しております。「**車間距離の確保**」「**早めのブレーキ操作**」「**回りの状況を予測**」するということの大事さがわかって来ます。



* 交差点手前で信号が黄色に変わり反射的に踏むブレーキ



* 手前の車両のブレーキランプでハッとし踏むブレーキ



* 前方の車両が急に進路変更をしての急ブレーキ

セイフティレコードの持ち味を活かし生きた教育の実践で成果

～ 目標！保険料を5000万円から1500万円へ ～

セイフティレコードの存在を知り、その機能を理解した結果、セイフティレコードから入手できる生の運転データにより運転適性検査ではわからないところを補った質の高い安全運転教育ができることが判りました。会社全体で自動車事故を減らすという責任をはたすためには、運転者への安全運転教育による啓蒙しかないと判断し、自動車事故削減と保険料削減という体質改善を目標にセイフティレコードの導入に踏み切りました。乗せ替えが自由に来るという特徴を活かし、営業所の社有車に設置し、1週間ごとにデーターを回収する運用を始めました。システムからもたらされるデータ、情報を重用し運転診断結果と指導書（ヒヤリハット）を使って必ず個別指導を行うことを実行しております。実施過程で、点数が悪い人には必ず同乗指導を行い、運転診断のコメントを元に再度データをとるなどを繰り返しながら日々安全運転技術の向上、安全運転意識の啓蒙を行い、自動車事故防止の活動を行いました。

その結果、90%の人は運転の意識を変えることができ、実際の運転がよくなることが明白となりました。改善が見られない10%の人には、本人に運転状況の結果を見せ改善テーマを確認してから同乗して改善指導にあたります。SRを導入してから1年、事故が激減し（特に大きな事故が減った）保険料が5000万から3000万に



まで減額することが出来ました。SRを使用しての安全運転指導を続けることで、さらに1500万まで減額が可能と考えています。セイフティレコードを使ってみて、説得力のある運転指導をおこなう為には、データをうまく活用することがとても大切であるということを実感いたしました。

コーヒーブレイク



- 最近コンプライアンスという言葉をしばしば耳にするね
- 法令遵守ってことでしょう。要するに企業活動も定められた法律を守りながら日々の活動を行わなければならいということだよ。事故が多発するとコンプライアンスがどうこうといわれるけど・・・。
- 違反そのものがコンプライアンス欠如の一例を意味するから当然事故が多発するとその企業のコンプライアンスが問われるわけよ。最近は大企業ではコンプライアンスに熱心に取り組んでいるそうだよ。
- いずれは中小の企業にもその気運は広まるね。そうになるとなんだか窮屈になるね。
- 法律というのは、野放図にならないよう制約する役割をもっているからそれはしょうがないよ。不思議なもので慣れてしまうと窮屈でなくなるものさ。毎日の生活は法律でがんじがらめになっているけれど窮屈さを感じないじゃないの。
- 車の運行管理にもコンプライアンスを徹底することが求められるのは、そのことが安全運行の根底を為すからだね。法律を守って運行することが事故を予防する大きな手立てとなるわけだからね。そしてそれを当たり前のこととして習慣づけることが求められているわけか。なるほどね。

クライアント企業

運送会社

愛知陸運、前山倉庫、ソーワトランスポート、新木商事、千代田運輸、明治ビバリッジ、アサヒロジスティクス、羽田運輸、コープとうきょう、日本通運、ダイワ運輸、協栄流通、ＪＲ西日本グループ、池畑運送

官公庁・研究機関

神奈川県警、科学警察研究所、省エネルギーセンター、日本自動車研究所、気象協会、計量計画研究所

大学

東京大学、筑波大学、北海道大学、東北工業大学、室蘭大学、山形大学

自動車メーカー

トヨタ、ホンダ、日産、マツダ、日産ディーゼル、日野自動車、豊田中研、アイシン精機、デンソー、富士重工

その他

イフコ、オリックス・オート・リース、東京電力、東京海上、ＮＴＴ、日立製作所、東京ガス、中部電力



TEPIA 第15回展示

TEPIA (機械産業記念館) 1階

東京都港区北青山2-8-44

2003/4/9 ~ 2003/7/25

平日 10:30~18:30 土・祝 10:30~17:30

日曜休館

財団法人機械産業事業団

<http://www.tepia.or.jp/15th/gaiyo.html>



ロジスティクスIT関西2003

マイドームおおさか

大阪市中央区

2003/10/23 ~ 2003/10/24



中小企業テクノフェア2003

東京ビックサイト東2・3ホール

東京都港区

2003/10/29 ~ 2003/10/29

<http://www.sme-tf.org/j/index.html>



(企画中)

お問合せ先

株式会社 データ・テック 担当 山田 美佳
Tel 03 (5703) 7041 E-mail sales@datatec.co.jp



編集後記

最近ある運送会社の社史を拝見する機会があって、ページを繰っていたら馬車が荷を引いている戦前の写真に出くわした。人や車の往来する数も少なく、いかにものんびりと運送に携わっている写真を見入りながらこの時代には自動車事故や大気汚染なんてしるものではなかったんだと感じ入った次第である。文明が進化し、社会が成熟すると人間が機械に支配され右往左往することになってしまう。安全の問題を通して見えてくるものは、人間の行動の有り様なんだと実感する次第である。